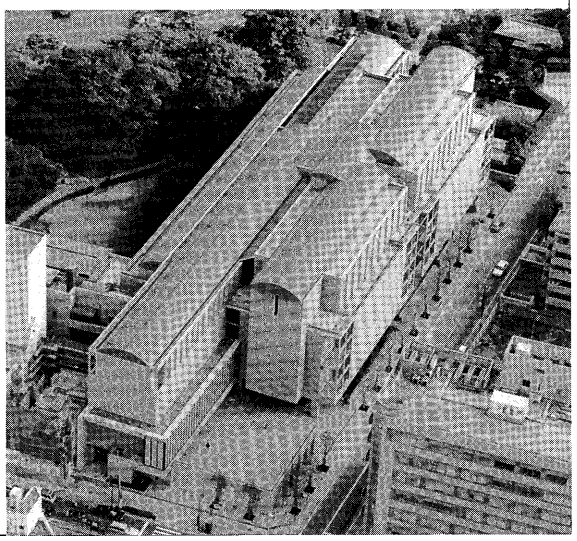
広島県立美術館

所在地：広島県広島市中区上幟町2-22
設　置：広島県
運　営：財団法人広島県教育事業団



■館の概要

1968年に開館した広島県立美術館を全面的に建て替え、1996年に開館した。広島市の中心部に位置し、縮景園に隣接している。収蔵品は、広島県ゆかりの作家、日本・アジアの工芸作品、1920年から30年代の美術作品を柱とする約3,400点。平山郁夫、ダリ、トルクメニスタンの工芸品などが中心。常設展示のほか、企画展示、美術図書室、講堂での催し等をとおして市民が美術にふれる機会を提供している。また、作品発表の場としてのギャラリーを設け、創作活動を支援している。

■情報システムの概要

1．収蔵品管理・展示システム

約3,400点の収蔵品を管理する管理系システムであるとともに、来館者に収蔵品をハイビジョン画像で提供する展示系システム。

システム構成は図に示したとおり。収蔵品のデータおよび画像データを蓄積したサーバー、学芸員用機器、館内の図書室に設置した展示用機器を館内ネットワークで接続している。ただし、画像データは更新頻度が少ないため、個別の機器のハードディスクにも格納し、通常はこちらで情報提供を行っている。テキストデータは学芸員用の機器から入力、サーバーに蓄積している。

収蔵品3,400点のうち2,500点ほどの画像データが蓄積されている。画像データは開館に先だって専門業者に入力を委託し、テキストデータは収蔵品台帳や作家台帳をもとにすべて学芸員が作成し、入力を外部委託した。継続的なデータ入力は学芸員が行う。

画像データは管理用にはサムネールを用いているが、「展示企画を練る際に参考になる」（館職員）。

来館者は展示ブースに置かれた機器で時代や分野などにそって検索し、特定作品の静止画やデータを見ることができるが、画面デザインが利用者に不評なため、現在作り替え作業中とのことである。

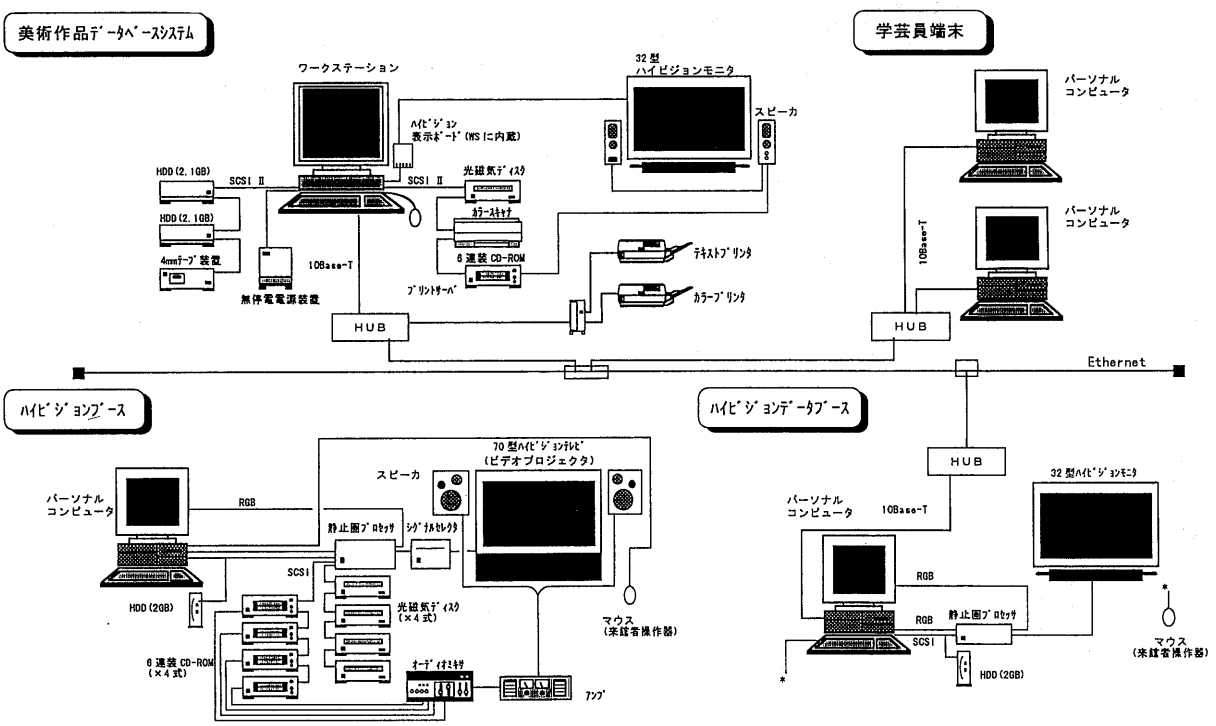
著作権については、国内の作家は個々に、海外の作家は著作権協会を通じてすべて了解

をとったうえでデータ入力を行っている。

システムの構築にあたっては、館の設計を行った設計会社の協力を得ながら学芸員が仕様を検討し、機種・ソフトを決めず、機能面について詳細に示した仕様書を作成したうえで入札を行ったため「費用対効果に優れたシステムが構築できた」(館職員)。

収蔵品データベースには旧所有者、購入金額などの部外秘データが入っているため、現在は非公開であるが公開のガイドラインを検討しているとのこと。研究者などに限定して利用を許可することもあるが、開館後間もないこともあり、実績はない。最近の美術館における収蔵品データベースや共通データベースの動きについて館の担当者は、ハードウエアやOSの違いはたとえばHTMLやSGMLなどの文書の標準化により解消できるかもしれないが、館の特性が異なるためデータベース化が進むかは疑問である、と述べている。

2．その他のシステム

講堂にハイビジョン機器が置かれている。また、県の財務処理システムの端末が設置されている。

システム系統図概略